

基調講演：「激動期を迎えつつある日本と名古屋大学の改革～濱口プランをめぐって～」

講演者：名古屋大学総長 濱口 道成 先生

(文責：坂巻資敏 (S42 卒(第26回生))

本日は東山会関東支部総会にお招き下さりありがとうございます。藤田支部長の冒頭のご挨拶の中に、「最近の若手管理職は新聞を読んどらん(某大手企業では10%以下)。良識/常識が疑われる言動が多いことを痛切に感じる昨今だが、その原因の一つだと思っている」とのお話がありましたが、私自身も正直、そこまで新聞離れが起きていることを知り驚愕しました。

さて、本日はリベラルアート即ち国際化のお話をしたいと思います。

名古屋大学は一度に4人のノーベル賞学者を出しました。これは日本の大学の中では名古屋大学だけです。私達は名古屋大学の卒業生であることにもっと自信を持ってよいと思いますが皆様いかがですか。ノーベル賞の評価は40年前の実績を評価されたものです。当時の名古屋大学は学内に活気が漲っていました。

残念ながら今日の学内は当時の活気はありません。では昔に戻せばよいのかといえばそんな単純な問題ではありません。今日は当時と情報量が大きく変わっており、日本中から優秀な学生を集め、これをいかに鍛えるかを考えなくてはならない時代です。19世紀から20世紀は、地球上の人類が爆発的に増加した時代で、それ以前の人口は殆ど伸びていなかったのです。ガイア(地球)にとって人間は癌細胞の状態です。“こうした状況の中で日本をどのように捉えるか。70億人の世界の人達とどう共存するかを考える時代”です。中国はもはや後進国ではなくなりつつある時代です。

1. 日本の抱える困難：高等教育の未来はあるか

1-1) 財政赤字のもとでの運営交付金の削減

日本は天然資源が乏しいので生き残るためには高等教育に投資するしかないのですが、今の日本は高等教育について自信を持って論じにくい環境にあります。その理由は財政赤字が大きく、平成20年度末の公債発行残高は778兆円でGDPの148%になっています。こうした状況を踏まえて大学の法人化後の大学運営交付金は平成16年から21年の5ヵ年で720億円縮減されました。これは23の国立大学を廃校したことに相当します。文科省の方針では東大や名大など大学院大学の交付金を一般大学並みの水準に抑えることと学生の少ない大学の廃校化が進められています。

公財政支出の1999年から2004年間の伸び率はOECD加盟各国がプラスに対し唯一日本だけがマイナスとなっています。支給総額はジョン・ホプキンス大の1635億円、ワシントン大の775億円に対し東大282億円、名大93億円と日本の支給額は桁違いの低額です。これを更に下げようとしているのが日本の高等教育の現状なのです。

1-2) 少子高齢化・人口減少社会

わが国の人口動態予測によれば2055年の総人口：8993万人、中、労働可能人口(15歳～64歳)：4595万人(54%)、高齢者人口(65歳以上)：3642万人(40.5%)と2005年に比べて高齢者人口が1.4倍と明らかな超高齢化社会になっています。国力を現す総人口の国際ランキングで日本は1950年：5

位、2000年：9位が2050年では15位になると予測されています。

また、未婚率調査データでは、25歳～29歳の未婚率を1970年と2000年で比較すると女性は18%から54%、男性は12%から43%と急増しています。生涯未婚者の割合は男性が1.5%から12.4%、女性が2.5%から5.8%と未婚者が増えており、結果として子供が生まれなため18歳以下の子供が減少し大学受験者数が減ってきているのに対し、小泉改革で大学の自由化が始まり大学の数は1.5倍に増えています。即ち、

“子供数が減少しているのに大学数が増えているという状況の中で大学の淘汰が行われる時代”になった。名古屋大学も生き残りをどう図るかが問われています。

1-3) 大学の国際化

大学生生き残りの有力なもの国際化をはかり世界から優秀な人材を集めることであります。日本へ来る留学生の総数は年間12万4千人弱、海外へ出かける学生は年間8万人強です。日本の大学の国際化はほぼ飽和点から下降気味です。特に留学生の多い米国への日本からの留学生は2001年から急激に少なくなってきました。日本へ来る留学生は、年々増加しているが飽和点に近づきつつあります。

欧州は大学の国際化の推進策として「エラスムス計画」が進行しています。これは欧州内の留学促進プログラムで3ヶ月～12ヶ月他国大学に留学し、取得した単位は国境を越えて互換性が認めるといふものです。

主要国の留学生受け入れ数と学生に閉める割合は日本：91,000人(3%)、米：565,000人(5%)、英：351,000人(15%)、仏：210,000人(15%)、独：90,000人(10%)などとなっており、日本は国際化の潮流の中で孤立化しつつあります。“日本をガラパゴス化させるな”ということで名古屋大学でも改革に取り組んでいる！”ところです。

2. 名古屋大学の取り組み

2-1) 名大生のイメージ

名大生の85%は愛知、岐阜と三重出身者で、自宅から通学する学生が50%占めており大きな地方大学という見方もあります。しかし、益川敏英先生のように自宅から通学してノーベル賞を取った学生もおり、自宅通学が必ずしも悪いということにはなりません。一般的な名大生のイメージは「**誠実、実直、堅実だが覇気に乏しい**」といわれています。お集まりの先輩の皆さんの自己評価はいかがでしょう。皆さんは覇気があったから東京でがんばってこられたと思います。“昔の覇気は何によって育まれたのか。貧しさ、生活の厳しさ、夏の暑さや冬の伊吹下ろしの冷たさ、4畳半と銭湯の生活が覇気を作ったのか？” “どの様な教育環境が学生に必要でこれを如何に実現したらよいのか？”これが私の悩みです。

2-2) 国際化の推進：名大のこれまでの取り組み

名古屋大学を Nagoya University に変える！これが私の改革のキャッチフレーズです。其の為に世界に通ずる人材の育成と国際化の推進を積極的に進めて参ります。国際化の推進は平野眞一前総長も積極的に推進され、以下の4項目を中核として着実な実績を残してきました。私も更にそれを今後とも強力で押し進めていくつもりです。

1) 留学生の受け入れ

2) 大学間連携とAC21

3) 特色あるプログラムの実践

4) 海外拠点・同窓会整備

1) 留学生の受け入れ

名古屋大学の全学生数は 16,485 人：学部 9,618 人、修士 6044 人、博士 823 人で海外留学生の総数は 1,566 人全学生の 9.5%となっています。留学生の国別では中国：50%、韓国：9%、台湾、インドネシアとベトナム：各 3%台で、上位 5 カ国で全体の 70%を占めています。

2) 大学間連携と AC21

国際交流を活性化するためにこれまで名大が結んだ大学間協定校は 82 大学、学術交流協定締結は 20 件、また教育・研究の新たな展開を目指し世界的な大連携ネットワークを 2002 年 6 月 24 日名古屋大学国際フォーラムで設立しました。AC21 とは Academic Consortium21 のことで日、米、英、独、仏、中、豪、タイ、ラオス、南アの 11 カ国 20 の大学により構成されています。

3) 特色あるプログラムの実践

名古屋大学では留学生の受け入れ促進と日本の学生の国際性をはぐくむ目的で様々な特色あるプログラムを展開しています。その主要なものを以下にご紹介します。東山会に関連するものとしては、トヨタの研究者と本学の教員が連携して英語で講義をしている自動車工学のサマープログラムがあります。これは人気が高く米：25 人、英：3 人、仏：2 名、日：23 名が参加しています。その他、開発途上国の拠点大学を中心として農産物加工産業振興モデルの構築と普及活動や現地人の日本語べらべらの弁護士を育てて日本の現地法人の企業活動を支援する取り組みなどがあります。詳細は割愛します。

【英語によるコース】

- (1) 短期留学プログラム (**B&M, NUPACE**) 【平成6年度～】
- (2) 総合法政専攻国際法政コース (**M&D**, 法学研究科) 【平成11年度～】
- (3) 最先端土木技術研究プログラム (**M&D**, 工学研究科) 【昭和62年～】
- (4) 国際環境人材育成プログラム (**M**, 環境学研究科) 【平成20年度～】
- (5) 自動車工学における先端技術と課題に関するサマープログラム
(**B, M&D**, 工学部・工学研究科) 【平成20年度～】
- (6) ヤングリーダーズプログラム (YLP) (**M**, 医学系研究科) 【平成15年度～】
- (7) 大気水圏科学留学生特別プログラム (**M&D**, 環境学研究科) 【平成14年度～】

【その他のコース】

- (1) 日本法教育研究センター (**B**, 法学部・法学研究科) 【平成17年度～】
- (2) 中国大学院生公費派遣留学プログラム (**D**, 全学) 【平成19年度～】
- (3) グローバルCOE拠点による交流 (**D**, 理・工・農・医・文学研究科) 【平成19年度～】

B 学部生、**M** 修士、**D** 博士

4) 海外拠点・同窓会整備

名古屋大学は現在海外の事務所を 4 箇所持っています。即ち、米国のノースカロライナ州立大学内、上海、ウズベキスタンの首都 Tashkent とドイツの Freiburg 市です。それぞれの地域における名古屋

大学のプレゼンス向上、同窓生の取りまとめセンター、現地留学生のリクルート、産学官連携活動の推進、名古屋大学の広報宣伝活動などを展開しています。

名大全学同窓会の会長は東山会会員でもあり、本日の総会にも参加を予定されている、豊田章一郎先輩にお願いしています。また現在海外に 8 カ国の同窓会支部が出来ています。設立の古い順番に韓国、バングラデッシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジアとウズベキスタンで台湾は現在設立準備中です。

このように名古屋大学は着実に海外の拠点を構築し、また多くの国で同窓会支部が設立されて、様々な交流が展開されており、こうした活動が名古屋大学の国際化推進に寄与しつつあると信じています。

2-3) 国際化の推進：名古屋大学のこれからの取り組み

取組 1：英語教育の改革

これからの大学生は英語で論文が読め、英語で論文を書き、英語で国際会議の発表ができなければ、世界のリーダーになれません。名古屋大学の目指すグローバルな学生を育成するために、英語教育の改革と G30 を重点的に推進していきます。

英語改革では全新入生に入学前に英語の TOEFL テストを受けさせ卒業するまでに英語力を引き上げる名大英語トレーニングコースを開設しています。このトレーニングで 140 点/6 ヶ月英語力が向上した学生もいますし平均で 40 点向上しています。点数の向上した学生は総長表彰をしています。こ成績優秀者を表彰したとき本人の表情がさえないので理由を調べたら入学時の英語の点数が極端に悪かったので人並みになっただけで表彰されたことが恥ずかしいという学生もいました。全学で英語力向上に熱意をもって取り組んでいます。

取組 2：グローバル 30 (G30)

G30 の取組は英語コースの新設、ワンストップ・オフィスの開設と海外拠点の整備です。

1. 英語コースの新設

学生の国際性を育む為、学部と大学院それぞれに英語で講義を行う英語コースを新設しています。

学部の英語コースは、自動車工学、物理系、化学系、生物系、国際社会科学の5コースです。博士課程

前後期課程は、物理数理系、化学系、生物系、医学系、経済・ビジネス国際、比較言語文化の6コースです。

2. ワンストップ・オフィスの設置

- ・ アドミッションオフィス（英語による学生受付業務）
- ・ キャリアディベロップメントオフィス（留学生の卒業後の進路指導）

3. 海外拠点の整備

- ・ウズベキスタン事務所の設置（海外共同利用事務所）
- ・日本の大学の魅力を情報発信
- ・

4.海外留学生受け入れ

G30 で目指す海外留学生の受け入れ計画は 2009 年の 1,566 人を 2013 年 2,100 人、2020 年 3,000 人に増員することです。留学生を増員する狙いは、多数の留学生を呼び込むことでなく、これによって名大生を変え世界のリーダーを養成したいからです。留学生で一番多いのは大学院生で全体の 60%を占めています。75%の学生が私費で来ている。また滞在している住宅は大学の寮が 12%と少なく 66%の学生は民間のアパートや下宿で生活しています。留学生数を拡大するには、留学生の奨学金や滞在宿舎と研究施設や設備の拡充が必要ですがこれを大学のみで解決することは困難な状況にあります。

3. 濱口総長の決意

“美しいガイヤよ永遠であれ！”名古屋大学の学生を地球規模に挑戦する取組によって名古屋大学を Nagoya University に変え、「誠実、実直だが覇気に乏しい名大生」を「**誠実、実直で、勇猛果敢な名大生**」に変身させたい。人は体験を通して成長する。大学に国際的な環境を作り、名大生に国際的な体験をさせ、異文化の中で生き抜く知恵と気力を要請する大学でありたい。其の為に創設された名古屋大学基金のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

—以上 終わり—